

みんなが住みやすい

世界にするには

スーツを着た男の人は、どうしておじいさんやおばあさんに席をゆずらないのだろうと思いました。

小五

「あつ、優<sup>ゆう</sup>先席にスーツを着た男の人がすわっている。」

これは、去年の秋に遊園地に行つたときの電車の中での話です。ぼくは、つりかわを持ちながらたくさん荷物を持っていました。電車はとても混んでいて、立っているおじいさんやおばあさんもいました。

このときぼくは、不思議に思いました。優先席は、おじいさんやおばあさん、耳が聞こえない人、目が見えない人、にんぶさんがすわるための席だと思っていました。だから、ぼくの母は、椎間板症(ついかんばんしよう)だったこともあり、こんばんしようとしがいたくなつたり、足がしびれました。ぼくが見た優先席にすわっていたあの男の人は、もしかしたら目に見えない病気やしよう害があつたのかも知れないと想到了。

りすることがあります。コルセットをつけたり、いたみ止めを飲んだりしているけれど、とてもいたいそうです。また、ぼくの大**叔父**は、耳が不自由でほちよきをつけないと音が聞こえにくいうです。そんな人たちが、電車の**優先席**にすわつたら、そのとき、周りの人はどうに思うでしょうか。**ほとんどの人はなぜ元気なのに優先席にすわっているのだろうと、以前のぼくと同じように不思議に感じます。**

ぼくは、目に見えないところもその人のだといふことがわかりました。例えば、ほちよきをつけていない耳の不自由な人や、白じようを持つていい目の人など、

自分の見える情報だけをたよりにしていると、その人がもつ、しよう害や病気は見えてきません。

ぼくたちに必要なのは、目には見えないけれど、助けを求めたり、つらい思いをしたりしている人がいるかもしれません。もし、目に見えないところにら生活すること、そして気付くことです。もし、目に見えないところにも気付ける人が今よりももつと増えたら、きっとこの世界は、人の心が温かくなり、住みやすくなると思いました。

ぼくは、今回の経験から、元気そういうに見えていても、中には病気や苦しいこと、つらいことをかかえてくる人がいることがわかりました。み

んな何かをかかえて生きている。それもふくめたすべてがその人なのだと  
いうことを改めて感じました。

だからこそ、かたよつた見方をせず  
に、一人一人と向き合うことが大切  
だと思います。きっとその考え方  
そが「人権」<sup>けん</sup>という意味だとぼくは  
思います。